

# 広島日仏協会報

BULLETIN No. 210



広島日仏協会  
SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE

アリアンス・フランセーズ  
ALLIANCE FRANÇAISE

広島日仏学院  
CENTRE CULTUREL FRANCO-JAPONAIS

HIROSHIMA  
décembre 2021

# フランス人墓地に説明板

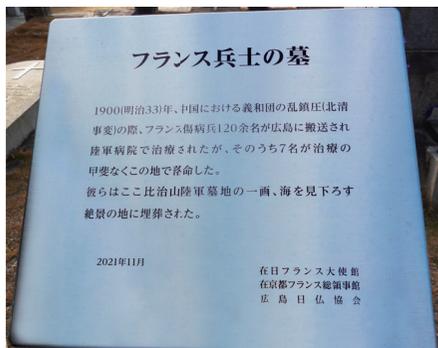
原野 昇

このたび比治山の陸軍墓地内にあるフランス人墓地に、日本語による説明板が新たに設置され(製作：(株)みづま工房)、さる11月19日にその除幕式と、合わせてフランス戦歿者記憶協会による兵士追悼記念式典が挙行された。

式典には三山秀昭会長、望月公正フランス名誉領事をはじめとする日仏協会関係者および在広フランス人のほかに、ジュール・イルマン総領事が京都から、マチュー・セゲラ・フランス戦歿者記憶協会日本代表とニコラ・ピエルソン在日フランス大使館付き副武官が東京から来広され参列された。

これまで同フランス人墓地に日本語の説明がなかったため、日本人訪問者にとって、どこの国の人の墓なのか、どのような理由で外国人の墓がこの陸軍墓地内にあるのかが分からなかった。かねて日本語説明板が望まれていたが、このたびイルマン総領事のお力添えにより、フランス政府(在日フランス大使館)の予算で、日本語説明板を設置することができた。

式典では、三山会長、イルマン総領事の挨拶に続き、セゲラ・フランス戦歿者記憶協会日本代表が挨拶されたが、同氏は挨拶の中で、同墓地に眠る7人の兵士のうちの一人を取り上げ、軍歴を紹介し追悼された。その後、取り上げた兵士の出身地アンジェのクリストフ・ベシュ市長から託されたメッセージを読み上げられた。わが町アンジェ出身の兵士が1900年に広島で命を落とし、その兵士を追悼する記念式が広島で挙行されることを、事前にセゲラ日本代表から知らされていた同市長は、メッセージに加え花束も献呈された。



説明板



左から原野副会長、望月名誉領事、三山会長、イルマン総領事、セゲラ日本代表、ピエルソン副武官の各氏

# フランス兵士追悼式でのメッセージ

2021(令和3)年11月19日(金)

広島(比治山陸軍墓地内) フランス人兵士墓地

ジュール・イルマン在京都フランス総領事



ご臨席の皆様、  
フランスの友人の皆様

私は、いつの時も広島を訪問できますことを大変嬉しく思います。しかし、本日は特別でございます。在日フランス大使館軍事部より副武官のニコラ・ピエルソン氏、フランス戦歿者記憶協会日本代表マチュー・セゲラ氏と共に、20世紀のはじめに祖国から遠く離れたこの地で、祖国のために亡くなられた7名のフランス人水兵がここに眠っていることを記した「説明板」の除幕式に参列するために参りました。よって、本日の広島訪問は、私にとりまして非常に感動的なものとなりました。

祖国、フランスのために命を落としたフランス人兵士のお墓に参じ、黙祷を捧げる、それは大変感動的なことであります。私は、フランス国内だけではなく、多くの国々の墓地を御参りいたしました。命を落としたフランス兵士の悲しい運命に哀悼の意を、そして、祖国のために尊い犠牲になるやも知れず、戦場へ赴いた彼らの勇氣に感動を覚えます。現在も、命をかけて我々の自由を守る兵士、特にアフリカのサハラ砂漠の南側に広がるサヘル地域でのテロの脅威に立ち向かう兵士に感服し、感謝の意を表します。1963年以降、フランス国外での活動で約800名のフランス兵士が命を落としています。

この広島では、7名のフランス人水兵が眠るここ比治山の海を見下ろす絶景に心を打たれます。広島日仏協会様、特に、この兵士の存在を歴史の風化から常に守り続けていただき、そし

て、本日、7名のフランス人水兵がここに眠るに至る経緯を説明する「説明板」の設置により、彼らの存在に再び光を当てていただいた原野教授に心より感謝の意を表します。

19世紀の終わり、清朝の勢力は弱まり、敗北を重ね列強国に外国人居留地を認めざるを得ない状況となり、1899年に「義和団の乱」が起こり、1900年6月、北京の公使館襲撃で頂点に達します。この事態は、8カ国連合軍(フランス、日本を含む)の北京進出に至ります。この戦争の後方支援基地として、長崎には軍事病院が設置され、広島でも負傷者を受け入れて頂きました。そして、ここ広島では7名が負傷、または病で命を落としたのです。明治政府は、彼らの最後の場所として祖国につながる、海に面したこの絶景の地を選んだのでした。

日本には、フランス人兵士の眠る墓地が数多くあります。これは、不穏な1930年代まで日仏両国は長い間同盟国であった証であります。私の管轄である西日本でも、長崎、また神戸でもフランス人水兵は1世紀以上にわたり眠っています。神戸では先週、約80名の方々にご参列いただき「第一次世界大戦終戦記念、戦没者追悼式典」を執り行いました。敦賀、広島、門司、そして沖縄の名護にも墓地がございます。その墓地を訪れる度に、おおげさではなく皆様に素晴らしい管理、維持をしていただいておりますことに驚いております。現地の地方自治体の皆様、名誉領事様、日仏協会の皆様、フランス戦歿者記憶協会の代表の方々が、在京都フランス総領事館、在日フランス大使館軍事部と連



絡を取りながらフランス人水兵のお墓のお世話をさせていただいております。フランス政府の名におきまして皆様のご尽力にこの場で心より深く感謝申し上げます。

ご臨席の皆様、フランスの友人の皆様、  
本日の除幕式の発端は100年以上昔にさかのぼります。これは、日仏の絆の根源であります。この深い根源は、気まぐれな歴史に翻弄されますが、長年にわたり信頼関係を増大させ、日仏の両国は「特別なパートナーシップ」を築き上げました。この「特別なパートナーシップ」は防衛の分野で大変活動的でございます。約10日前、フランス海軍の監視飛行機ガーディアンは日本の航空自衛隊の基地より黄海の監視のミッションを遂行いたしました。今年の5月に、日仏は優先課題であるインド太平洋地域での安全保障のため、米国、オーストラリアとの共同訓練「ARC21」に参加しました。フランス海

軍からは強襲揚陸艦「トネール」とフリゲート艦「シュルクーフ」の2隻が参加しています。インド太平洋地域には165万人のフランス人が5つの海外領土に住み、進出しているフランス企業は7000社、事前配備部隊の軍人8300人が駐留しています。

この120年の時間の隔たりは、本日の集いの根源となった出来事と現在の我々はかけ離れたものとなりました。悲惨な戦争の前の時代、帝国主義の絶頂を迎えた20世紀、そして、すべての覇権を排除し、法の支配による多国間秩序の今日。他の国々と共にこの多国間秩序を保護するために、特にこのインド太平洋の地域で日仏は共同で取り組んでいます。

お分かりいただけましたでしょうか。我々の歴史には未来があります。

ご清聴有難うございました。

Hommage  
au sergent François Lelièvre  
Matthieu Séguéla,  
Délégué général du Souvenir français au Japon



フランソワ・ルリエーヴル軍曹への賛辞  
マチュー・セゲラ  
フランス戦歿者記憶協会日本代表

Le Souvenir Français est une association reconnue d'utilité publique placée sous le haut patronage du Président de la République. Elle a pour vocation de maintenir la mémoire de tous ceux qui, combattants de la liberté et du droit, sont morts pour la France ou l'ont bien servie, qu'ils soient Français ou étrangers. Le Souvenir français a pour mission l'entretien des sépultures et des monuments commémoratifs, - tâche à laquelle le Consulat de France veille efficacement -, la transmission des valeurs de la République aux jeunes générations et l'organisation d'actions mémorielles pour rendre hommage au courage de tous ces hommes et de ces femmes tombés au champ d'honneur.

A Hiroshima, la France et le Souvenir français ont la chance d'avoir un ami fidèle, le Pr Noboru Harano. Par ses recherches et ses voyages, il a contribué à faire connaître l'histoire des sept soldats inhumés à Hiroshima. Allant jusqu'à retrouver leurs descendants, les rencontrer en France et susciter des manifestations officielles. Au nom du Souvenir français, je tiens à l'en

「スーヴニール・フランセ」というのは、共和国大統領後援の下に置かれた公益団体の一つです。フランス人と外国人とを問わず、自由と権利の戦士としてフランスために勇敢に戦い、命を落とした者たちのことを、いつまでも記憶し続けることをその使命としています。「スーヴニール・フランセ」の活動は、彼らの墓地および記念碑の維持管理—これにはフランス総領事館のご協力をいただいております—、共和国の重要な価値を次の世代に引き継ぐこと、名誉ある戦いの場で命を落とした彼ら彼女らの勇氣に敬意を表するための記念行事を挙ること、などです。

広島では、フランスと「スーヴニール・フランセ」とは、幸運にも原野昇教授という大事な友人を持っています。教授の研究とフランスへの探求旅行によって、ここに眠る7人の兵士の歴史が明らかにされました。教授は子孫探しのために渡仏し、子孫に会い、現地で、ここに眠る兵士の一人の追悼記念公式行事が行われたことにも貢献されました。「スーヴニール・フランセ」協会を代表して、原野教授に深甚の謝意を表します。

remercier très sincèrement.

Ce devoir de mémoire partagé entre Japonais et Français nous amène en ce 19 novembre 2021 à honorer, parmi les sept défunts, la mémoire du sergent François Lelièvre dont je vais lire la biographie

François Lelièvre voit le jour le 9 mars 1870 à Angers (Maine-et-Loire) selon son dossier militaire. Son père, Pierre Lelièvre, est employé à la carrière d'ardoise de Trélazé et sa mère Adélaïde Georget est femme au foyer. C'est un milieu modeste : le père est illettré et, comme lui, son jeune fils devient carrier. En 1891, à l'âge de 21 ans, François Lelièvre part faire son service militaire au 66ème Régiment d'infanterie à Ancenis,

une ville de garnison à mi-chemin entre Angers et Nantes. Il achève son service en 1894 avec le grade de sergent. Mais le jeune homme ne souhaite pas revenir à la vie civile. Sans doute est-il désireux de découvrir de nouveaux horizons et de servir son pays outre-mer. La même année, François Lelièvre s'engage dans le 4ème Régiment d'infanterie de Marine. Là, il va regraver les échelons d'une carrière d'active de sous-officier jusqu'au grade de sergent. Il est rapidement envoyé sur l'île française de la Réunion dans l'Océan indien. De là, son Régiment est déployé dans l'île de Madagascar où il va servir jusqu'en 1895 lors d'une campagne coloniale. A ce titre, François Lelièvre reçoit la médaille commémorative de Madagascar. En

1897, il est affecté en Cochinchine, une colonie française où il va passer trois ans. En juin 1900, il embarque avec son Régiment pour participer à l'expédition internationale armée en Chine. Dans ce pays, les armées françaises et de sept autres nations dont le Japon, ont pour mission de faire lever le siège des Légations à Pékin et de mettre fin à la révolte des Boxers. Le sergent Lelièvre participe aux combats mais, pour une cause inconnue – blessure ou maladie – il doit rejoindre la ville portuaire de Hiroshima pour se faire soigner

dans un hôpital. C'est dans cette ville qu'il décède le 19 novembre 1900. C'est dans cette ville qu'il repose désormais en paix.



2021年11月19日、日本とフランスが協同して記憶継承を図る本日の行事に際し、ここに眠る7人の兵士の一人、フランソワ・ルリエーヴルの経歴を読み上げさせていただきます。

フランソワ・ルリエーヴルは、彼の軍歴によると、1870年3月9日、メヌ・エ・ロワール県のアンジェで生まれました。父親のピエール・ルリエーヴルは、トレラゼのスレート石切職人で、母親のアデライド・ジョルジェは専業主婦でした。質素な家庭で、父親は読み書きができませんでした。息子のフランソワも父親同様、石切職人になりました。1891年、21歳で、フランソワ・ルリエーヴルは軍役に服し、アンジェとナントの間にあるアンスニ駐屯地の第66歩兵連隊に入隊しました。1894年に軍曹の位で兵役を終りました。しかしこの青年は軍隊を離れることを望みませんでした。おそらく未知の世界を知りたくて、海外部隊を希望し、同年、海軍第4歩兵連隊に入隊しました。そこで彼は昇進を続け、下士官になりました。彼はその後すぐに、インド洋上のフランス領・レユニオン島に派遣されました。そこから、彼の連隊はマダガスカル島に展開し、1895年の植民地戦争の時までそこに留まりました。この戦いで、フランソワ・ルリエーヴルは、マダガスカル記念勲章を授与されました。1897年に、ベトナム南部のフランス植民地部隊に配属され、そこで3年間過ごしました。1900年6月、彼の連隊は、中国における8か国連合部隊に加わりました。そこで、フランス部隊は、日本を初めとする7か国の部隊と共に、北京で包囲されている外国大使館を解放し、義和団を鎮圧することが任務でした。ルリエーヴル軍曹は参戦しましたが、負傷か病気が詳細は不明ですが、港湾都市広島で治療を受けることになりました。この町で1900年9月19日に命を落としました。以来この町で安らかに眠っています。

Angers n'oublie pas  
Christophe BÉCHU  
Maire d'Angers et  
président d'Angers Loire Métropole



アンジェ市長のメッセージ  
アンジェ市は忘れていません  
アンジェ市長兼アンジェ・ロワール・メトロポール県知事  
クリストフ・ベシュ

Angers n'oublie pas ses soldats ; les enfants du pays qui sont morts loin de chez eux.

Je pense tout particulièrement au sergent François Lelièvre. A ce jeune homme de 30 ans, mort en 1900.

François Lelièvre, qui repose aujourd'hui, comme six de ses camarades, dans le carré français du cimetière militaire d'Hiroshima, a su gravir les échelons dans l'armée ; passant d'une carrière d'active de sous-officier au grade de sergent.

Il est l'exemple de ce que l'armée peut produire : de l'ascension sociale, de l'exemplarité et du rayonnement ; en projetant nos soldats loin de nos frontières nationales.

François Lelièvre est l'honneur de notre pays et de notre belle ville d'Angers.

Il est le lien qui unit pour toujours et à jamais la ville d'Angers à celle d'Hiroshima.

Alors, aujourd'hui, en son honneur, je vous invite à mêler nos pensées et nos chants aux chants du monde, en hommage à tous nos soldats morts pour la France.



アンジェ市は、故郷から遠く離れた地でフランスのために命を落とした兵士たちのことを忘れていません。

特に、1900年に30歳で亡くなったフランソワ・ルリエーヴル軍曹のことを思い起こします。

他の6人の仲間とともに広島陸軍墓地に眠るフランソワ・ルリエーヴルは、軍歴を積んで、下士官から軍曹に昇進しました。

彼の昇進は、海外で活躍するフランス軍人の輝かしい手本でありました。

フランソワ・ルリエーヴルは、フランスの、またわが美しい町アンジェの誇りです。

彼は、広島町とアンジェ町の友好関係をいつまでもつなぐ絆です。

本日、彼の名誉にかけて、またフランスのために命を落とした全ての兵士のために、我々に共通の思いの歌を、世界の歌に合わせて歌いたいと思います。

(注：最後の文章は、アンジェ出身のタペストリー作家ジャン・リユルサの巨大な代表作が「世界の歌」という題名であり、その片隅に原爆のキノコ雲も描かれており、そのタペストリーの展覧会が1999年に広島で開催されたことに思いを馳せての締めくくりです。)



ルリエーヴル兵士の墓とアンジェ市長から送られた花束を前に



## ボジョレ・ヌーヴォの会 (日仏友好の夕べ)

2021年11月19日(金)午後6時30分からリーガロイヤルホテル広島で、秋の恒例行事となっている「ボジョレ・ヌーヴォの会 (日仏友好の夕べ)」がジュール・イルマン在京都フランス総領事をお迎えして開催された。

新型コロナウイルス感染症の拡大により2年ぶりの開催である。10月下旬あたりから感染者数が激減したとは言え、不安が残る中での開催であったが、会員、在広フランス人、会員の友人など100名余の参加者があった。

この日は湯崎英彦広島県知事をはじめ、16時から、広島(比治山)フランス人兵士墓地で行われた追悼記念式・説明板除幕式に参加されたマチュー・セゲラ・フランス戦歿者記憶協会日本代表、ニコラ・ピエルソン在日フランス大使館軍事部の副武官も参加された。

三山秀昭新会長にとってはパリ祭は2年続けて開催が見送られているので、会員の皆様に直接挨拶されるのは初めてだった。イルマン総領事はフランス語と日本語を交えて軽妙に話しかけられていた。そして湯崎広島県知事はブルゴーニュの小さな農家との交流を交えて、ワイン文化と広島の酒文化のつながりを通して、これからの広島とフランスの関係の発展を深めたいと述べられた。

参加者はゲストの話に耳を傾けながら、2021年の生産量が大幅に減少し生産者にとっては苦難のヴィンテージであったようだが、品質面は良好で、糖と酸のバランスがとれたボジョレ・ヌーヴォワインのフレッシュ&フルーティーの典型的スタイルを堪能していた。

そして、コロナ対策で、間隔を広くとった各テーブルではビンゴを楽しむ時間を持ち、移動を規制されている中での景品選びを楽しんだ。

今年もサントリー酒類(株)中国・四国支店から寄贈ワイン、(株)中国放送、(株)テレビ新広島、広島FM放送(株)、広島テレビ放送(株)、(株)広島東洋カープ、(株)広島ホームテレビ、(株)福屋、(株)みづま工房から協賛品が届いた。



原野副会長の中締めの挨拶の途中で、望月公正在広島フランス名誉領事の任期満了の挨拶もあり、久しぶりの談笑が尽きない様子であったが、コロナ禍の終息を祈念しながら来年の再会を約束して閉会した。

# 冬期フランス語講座

期 間 [2022年1月11日(火)～ 3月28日(月)] の 10 週間

2/11(金), 23(水), 3/21(月) 祭日休講

曜日・開講日	月 (1/17)	火 (1/11)	水 (1/12)	木 (1/13)	金 (1/14)
10:30 ～ 11:50	会 話 (中級) édito Niveau B2	初級のフランス語 初級文法のまとめをし ながら「時事フランス 語」講読	会 話 (上級) テキストはコピー	特 別 フランス絵画史	
担当者	Mme. K-GIRARD	藤 田	M. LE DIMNA	白 銀	
18:20 ～ 19:40	初歩のフランス語	会 話(初級++) alter ego+B1 聞く、話す、読む	会 話(初歩) alter ego+A1 やさしい会話	はじめてのフランス語 文法の基礎前半(発音から) ゼロから始める方へ	会 話(中級) テキストはコピー
担当者	渡 部	Mme. K-GIRARD	Mme. K-GIRARD	原 野	M. SANTONI

授業料:一学期10週につき

授業料 (週1回)	一般: 20,000円	学生: 18,000円
授業料 (週2回)	一般: 32,000円	学生: 30,000円
授業料 (週3回)	一般: 42,000円	学生: 40,000円
入学金	一般: 3,000円	学生: 2,000円

広島日仏学院

広島市中区中町6番30号  
広テレプラザ6階  
☎:082-569-5450

2022年度の  
春期開講予定期間

☆ 欠席の場合、代替クラスの受講が可能です。

春期フランス語講座:  
4月6日～6月20日

## フランス文化講演会

日 時: 2022年2月5日(土) 14時～15時30分

場 所: 広島日仏協会

広島市中区中町6番30号 広テレプラザ6階

講 師: 山本 美次 (画家)

演 題: 「ルーブル美術館での描写研修」

内 容: 1972年、何の準備計画も無い儘に渡仏し、幸運にも直ぐにルーブルでの描写研修を始め、感動ばかりの取蔵作品の中から自分で選び、毎日半日をその画の前で過ごします。今思うと本当に豊かで至福の時だったのです。

主 催: 広島日仏協会 電話: 082-569-5450

E-mail: sfjhiro@crocus.ocn.ne.jp

===== 来聴歓迎 (入場無料) =====

お知らせ

2022年度

## フランス文化講座

受講希望の方は事務局まで

### 家庭で作るフランス料理

期間 2022年5月11日～2023年3月8日 (原月6回)

講師 小山 賢一 (ルジャールダングルマンオーナーシェフ)

曜日 第2水曜日

前期 5/11, 7/13, 9/14

後期 11/9, 2023.1/11, 3/8

時間 午前の部 10時30分～12時30分

午後の部 1時30分～3時30分 料理内容により延長あり

場所 小畑女性教室 (広島市中区中町5番19号)

受講料 (材料費込み)

会 員=3回分: 9,000円、1回ごとの場合: 3,400円

非会員=3回分: 10,000円、1回ごとの場合: 3,700円

入学金 無 料 定員 15名 (申込み順)

主催 広島日仏協会 TEL/FAX:082-569-5450  
E-mail: sfjhiro@crocus.ocn.ne.jp

## 編集後記

2021年も新型コロナウイルス感染症で明け、そして暮れていこうとしています。

文化事業もままならず、会報も2回の発行になりそうです。ところが、10月に入る頃から、驚異的に感染者が減ってきました。ワクチン接種のお陰があったのでしょうか?そこで恒例の「ポジョレ・ヌーヴォの会(日仏友好の夕べ)」の開催に踏み切りました。

本当に参加者の皆様の笑顔とお喋りに救われました。

しかし、また新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の出現で落ち着いたかない年末になっています。どうぞご自愛くださいませ。

誌面の写真提供者

(株)みづま工房

} Grand merci

中島英男 (会員)

発行: 広島日仏協会

〒730-0037 広島市中区中町6-30

電話・FAX (082) 569-5450

E-mail: sfjhiro@crocus.ocn.ne.jp

HP: hiro-sfj.server-shared.com

発行年月日: 2021年(令和3年)12月25日

印刷所: (株)ニシキプリント